

「現代ベトナムにおける『市民社会』の状況」 ——意見の表出と社会背景——

平成 26 年(編)入学
派遣先国：ベトナム
廣瀬ケーナ

対象とする問題の概要

ベトナム戦争の背景には冷戦がありました。1975 年、民族主義と社会主義を掲げる北ベトナム側が当時の南ベトナムの首都サイゴンに入城し、戦争は終わります。以降今日まで、ベトナムはベトナム共産党もと社会主義に基づく国づくりを行ってきました。これにより、中国と同様に言論の自由への制約が大きい社会状況が続いています。自由な意見、特に政府とは異なる政治的意見表明は、他の自由主義国のように簡単ではありません。

しかし近年では、政府に対する反論がしばしば見受けられるようになりました。例えば、公害等、環境への配慮を求める声や、大規模開発のための土地収収で生活の糧を失った農民たちが行う抗議行動などです。また、2014 年春に起こった反中デモは、日本社会からも注目を浴び、皆さんの記憶にも新しいと思います。なぜ、これらの現象が起き始めたのでしょうか。また、この変化は政治学・社会学的にどのような捉えられるのでしょうか。



写真上：ハノイ郊外の景色。開発を免れた田畑も垣間見える

写真左：日本と変わらないショッピングモールのビルの前に故・ホー・チ・ミンと共産党のスローガンの看板



夕方の通勤ラッシュの渋滞



街をパトロールする警察

研究目的

意見の表出の背景には、ベトナム社会の急激な変化があります。ベトナムでは社会主義経済の停滞と後ろ盾だったソ連の崩壊を気にドイモイと呼ばれる市場開放と規制緩和の改革が行われました。この20年余りで市民の生活水準や生活形態、街並みや社会の雰囲気なども急速に物質的・金銭的に発展しています。一方で、加熱する自由競争は格差を生み出し、急激な工業誘致・発展は公害等環境の悪化を招くなど問題も出てきています。

これまでベトナム社会(特に北部)については、村落の形成や自治に関する研究が圧倒的に多く、さらに広いレベルの研究はあまり行われてきませんでした。しかし、上記のような新しい社会変動やそれに伴う意見表出はベトナムの全体像を把握するのに非常に重要です。ベトナムにおける「プラハの春」(言論の自由化)が起こるのかどうか見届けたいと思います。

フィールドワークから得られた知見について

まず、今回私はハノイでの多くの時間を語学学習に当てました。ベトナム人がどのような意見を社会に発信しているのかを追うことが私の研究の多くを占めるため、ベトナム語は必須です。ベトナム語は音学的に非常に難しい言語であり(中国語の四声ならぬベトナム語の六声があります。)、ネイティブの人の音を繰り返し聞き、たくさん会話することが上達への早道だと思います。

初めてベトナムで暮らし、現地の人々とコミュニケーションすることで、ベトナムにおける社会規範や常識感覚の理解への助けになりました。また、「ベトナムにおける社会主義」ならではの言論の雰囲気も感じました。ベトナムの人たちがどのような感覚・考えに基づき、何を考慮して社会に対する声を上げるのかを理解したうえで分析を進めるのは重要だと思います。

また、大学の語学の授業の合間に見て回るハノイやその周辺には、なぜ置かれた状況に耐えきれず声を上げる人々がいるのか、それを見て取る風景が沢山ありました。ハノイの近くには外資を元手にした大規模(商業)施設開発が進行中の場所がいくつかあり、行政が対象地の土地を農民から取り上げるため機動隊も投入された大騒動になった場所もあります。そのような場所に実際に足を運び見て回ったりし完全に土地収収が終わり、開発が進んだ現状を把握しました。さらに、環境問題などの社会問題などをテーマに作品を創作する若手の画家や書家のグループにも出会いました。彼らとの意見交換は、研究のインスピレーションを得るためのヒントとなりました。

今後の展開・反省点

反省点は、人脈の形成不足です。ベトナムでは政府の方針に反する研究をするとみなされた外国人には不都合なことも起こりえます。それゆえに、信頼して話を聞いたり研究を手助けしてくれるベトナム人との関係構築が必要だと感じました。今回は滞在が短かったため難しい側面でした。

次回のフィールドワークでも、ベトナム語の上達に努めるつもりです。

実は言論統制が厳しいベトナムで社会的な意見があふれているのは完璧に規制するのが難しいインターネット上です。インターネットにおいて展開されている言論は詳細かつ複雑なものもあり、読解にはさらなるベトナム語能力が求められます。

このようなネットによる意見配信をしているベトナム人ブロガーや活動家の人にも接触しお話を伺えればと思っています。



道端の床屋と住宅地の前で草をはむ牛